

連続講座 第4回 (2022年11月5日)

王国末期の外交課題と歴代宝案

西里 喜行 (琉球大学名誉教授)

はじめに

- ・『歴代宝案』第13冊 (2集巻174~189) …道光21 (1841) ~道光30 (1850)
- ・『歴代宝案』第14冊 (2集巻190~200) …道光30 (1850) ~咸豊 8 (1858)
- ・『歴代宝案』第15冊 (3集巻1~巻13) …咸豊9 (1859) ~同治6 (1867)、
(別集〈仏英情状〉、〈仏英亜三国情状〉) …道光24 (1844) ~咸豊5 (1855)、
(咨集〈文組方〉) …乾隆38 (1773) ~乾隆49 (1784)、他

I 中琉／薩琉 (日琉) 関係の外交システムと外交慣例

A 中琉関係の外交システムとルーティンの課題 [図1参照]

- ・進貢…二年一貢、進貢使節 (那覇→福州→北京)、進貢貿易 (福州琉球館)
- ・接貢…進貢船派遣の翌年福州へ、進貢使節の迎接
- ・册封…琉球国王の叙任 (王位継承者=王世子からの報喪／請封→册封使の選任→迎接使=接封使の派遣→册封使の来琉→諭祭／册封の式典／冠船貿易→册封使の帰任／謝恩使の派遣) …請封時期の決定権 (琉球側→内外情勢に左右)、册封方式の決定権 (中国王朝側→領封／頒封論争)
- ・謝恩使／慶賀使／進香使等の派遣…臨時的課題
- ・進貢ルート (那覇→福州琉球館→福建／浙江／江蘇／山東／河北→北京)

B 薩琉 (日琉) 関係の外交システムとルーティンの課題 [図2参照]

- ・上国…年頭使派遣 (対薩摩、毎年)、鹿児島琉球館で薩琉関係事務処理
- ・参府…江戸上り (江戸立ち) 使節団派遣 (対幕府、臨時)
- ・謝恩使 (国王即位承認の謝恩、薩摩へ「継目御礼」) / 慶賀使 (将軍即位の慶賀、「襲職慶賀」)
- ・在番奉行所…那覇駐在の薩摩の出先機関 (在番奉行以下若干名常駐)

II 王国末期の新たな外交課題と琉球の自己決定権の諸相

A 対清国関係の外交課題 [表1、表3参照]

- ・進貢年期の改定問題（二年一貢→四年一貢）…1839年、改定の詔勅→**琉球側の懸命な反対請願（向邦正＝恩河親方）**→詔勅の撤回→二年一貢の維持
- ・清国内乱の拡大と鑄銭用銅材の供出問題（福建当局→琉球当局、1856～1859年）…**琉球の存留通事は福建当局の要請を拒否**、王府当局は一回限りの献上品として二万五千斤の銅材供出、**献上か購入か**をめぐる交渉（**a-1『歴代宝案』2-199-12文書、a-2『歴代宝案』3-02-03文書**）
- ・清国の内憂外患と琉球使節の進京（北京入城）問題
 - ①使節旅程の変則的混乱（福州滞在中に帰国命令の勅諭→**琉球使節の懸命の進京（北京入城）請願**→勅諭の撤回→軍事情勢の好転後に進京許可、伴送官の他に文官武官（二名）と護送兵卒200～300名の護衛により進京（1852、54、56、58年の使節、**b-1『歴代宝案』2-193-09、b-2『歴代宝案』2-197-02**）
 - ②使節の進京不可能（福州滞在使節の懸命の進京請願→軍事情勢好転せず不許可、1860、62年の使節）
- ・尚泰の冊封問題
 - ①請封／冊封の時期の延期…1858年請封／60年冊封予定→62年請封／64年冊封予定→63年慶賀使（馬文英等）の派遣／進京不可
 - ②64年進貢使兼請封使（**東国興ら**）の派遣（**c-1『歴代宝案』3-10-02、c-2『歴代宝案』3-10-16、c-3『歴代宝案』3-10-17**）→東国興らの福州留置→北京の礼部へ**請封表／請封奏／結状の転送を再三要請**→65年6月礼部より66年に冊封使の派遣決定の通知、福建へ届く→至急便で琉球へ伝達（東国興ら進京／進貢）→琉球より迎接使＝接封使派遣
 - ③1866年4月冊封正副使の福州到着→来琉→諭祭／冊封式典／冠船貿易→冊封使帰国／謝恩使随伴…→琉球側がリスクやコストを省みず尚泰の冊封実現に拘ったのは何故か？（冊封は中琉関係の単なる形式ではない）

B 対薩摩／江戸幕府関係の外交課題 [表2参照]

- ・上国／参府問題…1850年「継目御礼」の謝恩使（尚泰の王位継承承認の謝恩使＝尚慎ら）を派遣、派遣費用として薩摩藩より銀八千両を拝借、1856年13代将軍家定の襲職慶賀使（伊江王子ら）を派遣予定→前年の55年伊江ら鹿児島着、参府準備→江戸大地震により参府中止（**伊江、鹿児島より帰国**）→薩摩／幕府協議し58年の参府を決定→琉球の慶賀使節（伊江ら）、58年5月鹿児島着、参府準備→58年7月幕府、琉球使節の参府延期、斉

彬の参勤命令（家定没、斉彬急死）→伊江ら再び鹿兒島より帰国→59年7月に62年琉球使節の参府決定→琉球側、参府費用捻出のため鬱金／紅花の販買権の引き渡しを薩摩へ要求

- ・参府使節派遣のコスト／リスクを配慮し、最終的に中止される

C 欧米艦船（異国船）／欧米当局への対応問題 [表4参照]

- ・インディアンオーク号乗組員の救助／送還問題…オーク号の座礁沈没→乗組員（67名）全員の救助→收容所建設／送還用の大船建造→中国の舟山島（英軍の作戦拠点）へ送還…→幕藩法（無二念打払令）違反／宗主国（清国）への敵対行為…→自国（琉球）の安全保障優先、自己決定権の行使
- ・サマラン号の琉球列島海陸測量をめぐる問題
- ・仏英艦船の和好／貿易／布教要求をめぐる問題
 - ①仏英宣教師（フォルカード／ベッテルハイム）の上陸滞在→清国への報告→自力交渉による退去要請（d-1『歴代宝案』「別台-1」）
 - ②セシーユ提督の条約締結要求→運天における外交交渉→琉球側の引き延ばし戦術→交渉失敗／セシーユ帰国→清国の外交的支援要請（d-2『歴代宝案』「別台-5」、第1次請諭使＝毛増光池城親方を清国へ派遣）
- ・イギリス当局の直接的外交アプローチとその対応をめぐる問題
 - ①パイロット号（ライオンズ提督）、パーマストンの書簡携帯／提出→琉球当局の返書（e-1『歴代宝案』「別鎌」-9、ベッテルハイムの帯同帰国を要請）
 - ②スフィンクス号（シャドウエル船長）、パーマストンの書簡携帯／提出→琉球当局の返書（ベッテルハイムの帯同帰国を要請）、1852年2月シャドウエルの首里城強行入城→第二次請諭使（小禄親方良忠）派遣（e-2『歴代宝案』「別鎌」-16）
- ・ロバートバウン号事件をめぐる問題
 - ①バウン号事件の経緯…バウン号、厦門からサンフランシスコへ→船内の苦力虐待→琉球近海で苦力反乱／バウン号奪取→石垣島崎枝村沖で座礁→苦力380名上陸／長期滞留→英米船の苦力捕縛作戦→広東へ連行された苦力の裁判、琉球側は石垣島残留苦力の福建への護送を計画／実施→護送途中に海賊の襲撃で離散→福建当局へ引き渡されたのは100名余
 - ②琉球当局の立場と行動…苦力を「天朝の良民」とみなして保護／慰撫→英米艦船の苦力捕縛作戦を黙認（→福建への苦力護送計画）→英米艦船の警告で護送計画中断→福建側へ苦力の石垣島滞留報告と護送許可を要請（f-1『歴代宝案』2-192-25）→福建側より苦力をめぐる英米当局との交渉経過の報告と護送許可の通知→琉球側より苦力護送船二隻派遣の通知（f-2『歴代宝案』2-194-07、08）…→伝統的国際秩序と英米流の新たな国際秩序の間で揺れ動きながらも自国の安全保障を最優先する立場を堅持

・アメリカ艦隊の来航をめぐる問題

- ①来航の目的（日本遠征→「開国」と貿易、琉球寄港→占領の思惑／日本開国交渉の足がかり）、来航の経緯…1853年那覇入港→浦賀入港／開国要求、帰途那覇へ再来→首里城への強行入城／石炭貯蔵庫の建設→乗組員の常駐／婦女暴行事件（g-1『歴代宝案』「別鎌」-19）、1854年再来→下田にて日米交渉／和親条約締結→最後の琉球寄港／条約締結交渉
- ②琉米修好条約（1854年7月11日）の注目点（英文／漢文、西暦／清国暦、ペリー提督／琉球国総理官の書名、七ヶ条の内容→来琉米人の接待／公正貿易と薪水の提供／遭難乗船者の救助保護／死亡者の埋葬等（g-2『歴代宝案』「別鎌」-23）…→アメリカは琉球を独立国として認知、琉球は条約締結主体として自己決定権を行使
- ③清国当局への報告（条約締結交渉前後のペリー提督の動向）→閩浙総督の上奏文に引用→情報操作の痕跡あり）